



# くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 河井 利恵子

編集担当者 森田 由香利

大手 直樹

## 第52回目のテーマは、“<sup>たいじょうほうしん</sup>帯状疱疹について”です。

帯状疱疹とは、水ぼうそうを起こす「<sup>すいとうたいじょうほうしん</sup>水痘帯状疱疹ウイルス」によって引き起こされる病気です。胸や背中、顔など体の左右どちらか片側の一部にヒリヒリした痛みが出て、数日後に赤い発疹や水ぶくれが帯のように出ます。

### <sup>たいじょうほうしん</sup>帯状疱疹になるまで

「水痘帯状疱疹ウイルス」に初めて感染すると水ぼうそうになります。発疹などの症状が治ってもウイルスは体の中の神経節というところに潜んでいます。

潜伏しているウイルスは悪さをしません。年を取ってきたり（加齢）、強いストレスや疲れて体の免疫力が落ちると、ウイルスがもう一度活発になって、帯状疱疹になります。

### <sup>たいじょうほうしん</sup>帯状疱疹になる人は？

水ぼうそうにかかったことのある人はだれでも帯状疱疹になる可能性があります。50歳ごろから増えて、80歳までに3人に1人になるとされています。

### <sup>たいじょうほうしん</sup>帯状疱疹は1度で終わる？

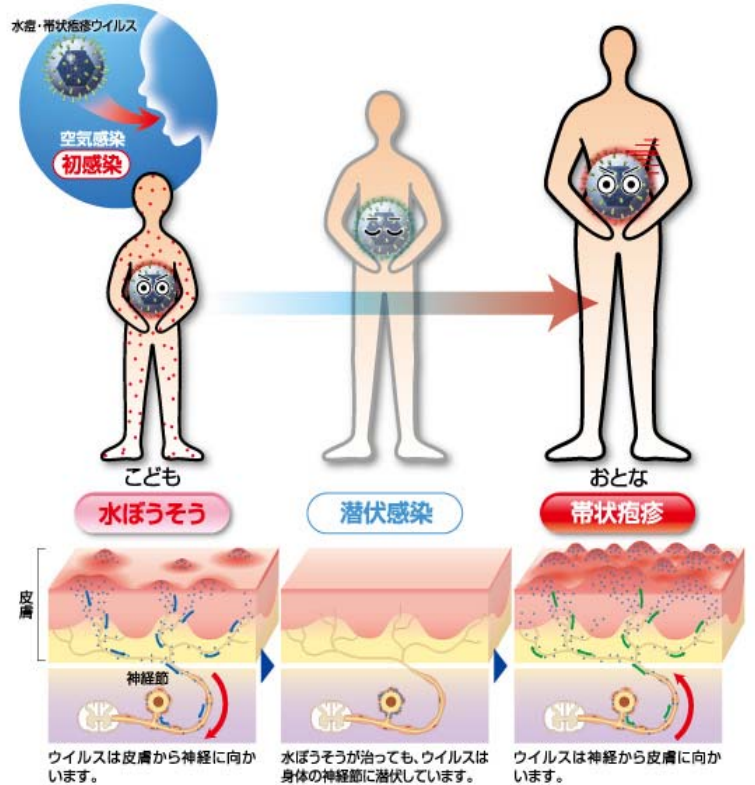
大半の人は1度で済みますが、発疹の出る場所を変えて、2～3度繰り返す人もいます。

### <sup>たいじょうほうしん</sup>帯状疱疹の治療

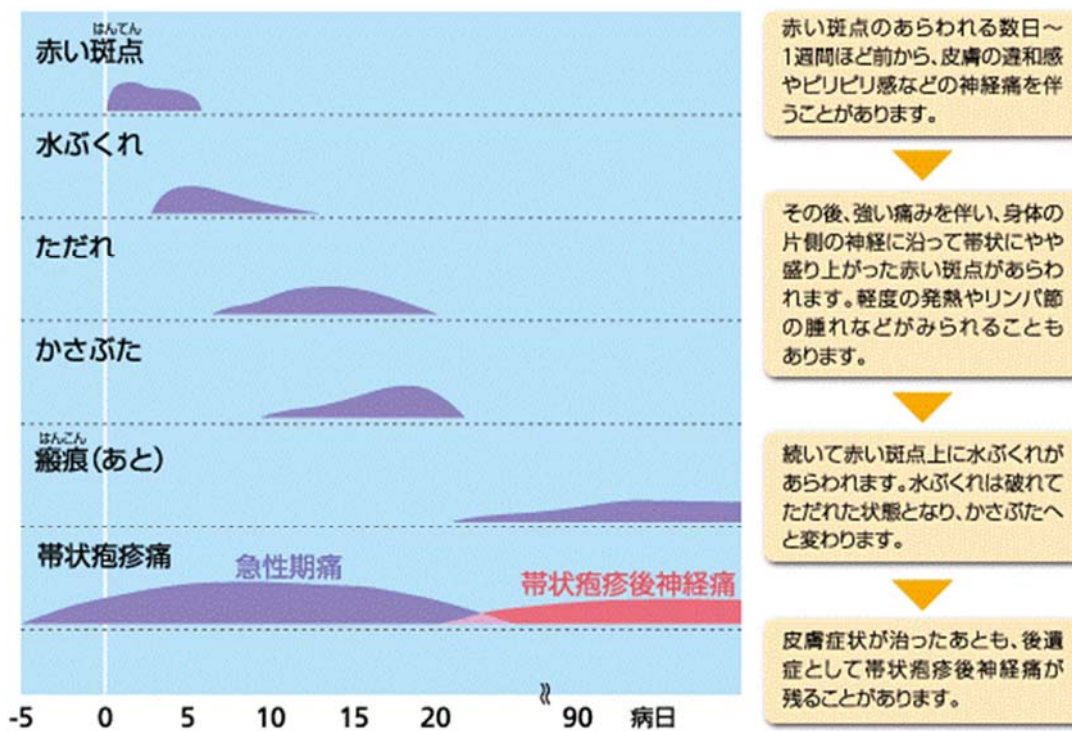
帯状疱疹が重症化したり、発疹が治ったところにやけどのような傷あとが残ったりするのを避けるためには、早めに治療することが大事です。

最初に出る痛みだけでは診断が付きません。発疹が出てから3日以内には、皮膚科の先生に診てもらいましょう。

治療はウイルスが増えるのを抑えるお薬（抗ウイルス薬）を1週間飲み続けます。腎機能によって1回に服用する錠数を減らしたり、1日の服用回数を減らす必要があるお薬があります。「腎臓・腎機能が悪い」といわれたことがある人は、先生に忘れずに伝えてください。



## 帯状疱疹の皮膚症状の経過



新村真人：感染・炎症・免疫, 31 (4), 295 (2001) より一部改変

患部が冷えると痛みがひどくなります。冷やさずに、できるだけ温めて血行をよくしましょう。ただし、使い捨てカイロや温シップ薬は、やけどやかぶれに注意して使いましょう。

水ぶくれが破れると、細菌による感染が起こりやすくなります。細菌による化膿（かのう）を防ぐためにも、患部は触らないようにしましょう。

帯状疱疹が他の人にうつることはありませんが、水ぼうそうにかかったことのない乳幼児には水ぼうそうを発症させる可能性があります。

## 帯状疱疹後神経痛って？

通常、皮膚症状が治ると痛みも消えますが、その後もピリピリするような痛みが続くことがあります。これを帯状疱疹後神経痛といいます。これは発症したときの炎症によって神経に強い損傷が生じたことによって起こります。痛みを残さないよう、発疹が出たら早めに皮膚科を受診し、早期治療でしっかり治しましょう。

また、2016年から帯状疱疹予防のため、50歳以上の人を対象にワクチンの接種が出来るようになりました。ワクチンの接種で帯状疱疹になるリスクを半分くらいに抑えられ、たとえ発症しても、その後に帯状疱疹後神経痛になるリスクを6割ほど下げることが出来るといわれています。

服用中のお薬の影響で免疫力が落ちている人は、ワクチンの接種が出来ないことがあります。ワクチン接種については、お薬手帳を持参のうえ、かかりつけの先生にご相談ください。

《参考資料》 マルホ株式会社 皮膚疾患情報 帯状疱疹  
奈良県立医科大学皮膚科 浅田秀夫教授

次回は、「院外処方せんとかかりつけ薬局」をテーマに2019年9月発行予定です。